

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助の理論と方法Ⅳ		必修(社.精) 選択(心)	2	2.3	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
田中 結香	講師控室	kyoumu	Teamsのチャットにて		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 相談援助の専門的な知識を獲得し、様々な技術を修得することで、ソーシャルワークを総合的に理解することができる。</p> <p>&lt;概要&gt; 教科書を中心に進めるが、順番が前後することもある。教科書に書かれている内容について、実際の現場での実践を例に説明したり、現場での写真や映像等も活用しながら、教科書の内容をわかりやすく理解できるような講義内容としていく。実践に即した課題も取り入れながら進めていく。印刷教材と同時双方向型の遠隔授業も活用していく。</p>				
学習上の助言	<p>教員が説明するだけの一方通行の講義ではなく、学生の主体的な参加が必要となる。また、毎回課題を出すため、課題達成に向けた予習・復習することが望ましい。</p>				
教科書	<p>①新・社会福祉士養成講座 8 第3版 相談援助の理論と方法Ⅱ/編:社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版</p> <p>②社会福祉士 相談援助演習 第2版 一般社団法人日本社会福祉士養成校協会=監修/長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤政和、中谷陽明=編集/中央法規出版</p>				
参考書	<p>①新・社会福祉士養成講座 7 第3版 相談援助の理論と方法Ⅰ/編:社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版</p> <p>②新・社会福祉士養成講座 6 第3版 相談援助の基盤と専門職/編:社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版</p> <p>③ソーシャルワークの実践モデル/久保紘章・副田あけみ編著/川島書店</p>				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	アプローチの違いを理解し、実践で活用できる能力を身につける。			社(2)、社(1)	
②	スーパービジョンの機能を理解し、その必要性を説明できる。			HSU(2)、(3)、社(1)	
③	ケースカンファレンスの方法を学び、実践できる能力を身につける。			HSU(2)、(5)、社(1)、(2)	
④	実際の現場でのソーシャルワーカーの実践について理解する。			社(2)	
⑤	国家試験の問題を確実に解答することができる。			HSU(2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション(講義概要・講義の進め方・評価方法等の説明をし、学生と重要事項の同意及び契約を行う)また、地域福祉の基本的考え方について理解する。	同時双方向型授業	前期の講義を復習しておく。後期の講義範囲を教科書で確認しておく。		2
2	【第6章】実践モデルを理解し、実践展開で活用できるようになる。	同時双方向型授業	治療モデル・生活モデル・ストレスモデルの違いを説明できるようにしておく。		2
3	【第7章】心理社会アプローチを学ぶ。	同時双方向型授業	現場で多様な現実に対応していく際には、アプローチの知識と技術を理解し、柔軟に活用して実践していくことが必要となる。予習として、テキストの各アプローチを読んで、イメージをつけておく。復習として、各アプローチの違いを明確にできるよう、理解を深めておく。		2
4	【第7章】問題解決アプローチを学ぶ。	同時双方向型授業			2
5	【第7章】危機介入アプローチを学ぶ。	同時双方向型授業			2
6	【第7章】行動変容アプローチを学ぶ。	同時双方向型授業			2
7	【第8章】エンパワメントアプローチを学ぶ。	同時双方向型授業			2
8	【第8章】ナラティブアプローチを学ぶ。	同時双方向型授業			2
9	【第7, 8章】アプローチのまとめをする。	同時双方向型授業	他の全てのアプローチの違いを説明できるよう復習する。		3
10	【第9章】スーパービジョンの機能を理解し、他の手法についても学ぶ。	同時双方向型授業	スーパービジョンと他の現任教育の方法について調べ、違いを説明できるよう準備する。		2
11	【第10章】ケースカンファレンスの方法を理解し、展開過程を学ぶ。また、実際の事例からケースカンファレンスを実践する。	同時双方向型授業	模擬カンファレンスを開催するため、自身の役割を遂行できる準備をしておく。		2
12	【第13章】事例研究や事例分析の必要性や方法を学び、実践できる能力を身につける。	同時双方向型授業	興味のある分野の先行研究を調べておき、研究の仮説を立てられる準備をしておく。		2

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

13	【第14章】 現場での実際の事例を用いて、これまで学んだ知識を活かし、ソーシャルワーク援助を実践する。	同時双方向型授業	これまで学んだ内容を復習しておき、ソーシャルワーク実践に活かせる準備しておく。	2				
14	実際の現場の事例を用いてソーシャルワークの理論と実践をつなぐ方法を学ぶ。	同時双方向型授業		2				
15	講義全体のまとめと試験対策及び意見交換	同時双方向型授業	わからない部分を明確にしておく。資料をすべてまとめておく。	3				
試	定期試験：達成度評価・評価のポイントを参照							
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		50	0	0	0	50	100	
総合 力 指 標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40	
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	25	25	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	25	25	
評価のポイント					フィードバックの方法			
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	講義で学んだ知識を確認します。 試験では、講義中に説明した内容やテキスト及び配布資料から必ず出題します。	試験の答案用紙は返却しません。 希望者には点数をお伝えします。				
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤	✓						
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	毎回講義のテーマに応じた課題を講義中に出題します。その課題の取り組み状況や内容等を点数化して加点します。しっかりと課題に取り組んでいるかの姿勢や意欲を見ていきます。 さらに、随時講義の感想を記載してもらいます。その内容からしっかりと講義内容が理解できているかや講義への積極性も確認します。	質問事項や課題に対する回答について、必要な場合は次回の講義時に説明をしたり、メディアを使用し個別に回答します。				
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥							
備 考								
<p>○Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨します。</p> <p>○今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得ます。</p> <p>○同時双方向型授業では講義中にフィードバックを行います。できない部分は個別に質問に返答する場合があります。</p> <p>○社会福祉士・精神保健福祉士取得希望者は必ず履修してください。</p> <p><b>教員の実務経験：</b>在宅介護支援センター相談員・地域包括支援センター社会福祉士・MSW として合計 17 年の経験。</p> <p><b>実践的授業の内容：</b>教員が実際に現場で担当している事例等を用いながら（個人を特定できないよう加工修正）、教科書の理論について現場の実践内容を踏まえて説明し、実践と理論の循環を意識して進めていきます。実際の現場の動きを映像として見たり、現場で活用している様式を使用して、実践と同じ感覚で事例検討会や記録の方法を体験していただく予定です。</p>								